

平成 25 年度 第 2 回 二宮町男女共同参画プラン推進連絡会 会議録

1. 日 時

平成 26 年 2 月 20 日（木）午前 10 時 00 分より午前 11 時 40 分まで

2. 場 所

二宮町役場庁舎 2 階 第 1 会議室

3. 出 席 者

○二宮町男女共同参画プラン推進連絡会委員

小林会長 西山副会長

竹内委員 岸野委員 田中委員 湯川委員

○二宮町政策部企画政策課

事務局：志賀課長 宮嶋副主幹 木村主査

○傍聴者：なし

4. 議 題

(1) 男女共同参画推進に伴う「広報にのみや」周知原稿(案)について

(2) 平成 26 年度の取組み予定について

(3) その他

【説明】

- ・住民の方々に「男女共同参画」を周知する事を目的に、常に住民の目に触れる町広報紙に、定期的に啓発記事を掲載する。平成 25 年度に策定した「第 2 次にのみや男女共同参画プラン」(以下：新プラン)の内容も紹介していく。
- ・掲載する記事内容を会議資料とし、二宮町男女共同参画プラン庁内連絡会議にて意見をいただいた。その意見を踏まえ、「資料 1」となっている。
- ・平成 26 年度の事業取組みとして、推進連絡会の開催は、2 回を予定しており、新たにスタートした新プランへの意見や提案、県や近隣市町村の主催する男女共同参画事業へ参加するなど、プラン推進及び啓発をする。
- ・自分の周囲や組織内部（選出団体等）への意識啓発や行政との連絡の橋渡しとなり、地域への推進活動を実施する。
- ・推進連絡会の活動内容として、町民を対象とした講演会実施のサポート、男女共同参画推進のための記事の作成・検討、男女共同参画のネ

ットワーク化を図る連絡会などを検討いただきたい。

【主な意見】※ 委員意見○ 事務局意見☞

- 原稿(案)①の、「～物事の決定に携わったりすることです。」の「携わる」という言葉は、子供でも読めるのか。「関わる」という言葉の方が、わかりやすいのではないか。
 - 「～「参画の促進」では、実際の生活や職場、地域活動において、」の「地域活動」は、「地域社会」や「地域」の方がいいのではないか。「活動」は、少し重いイメージではないか。
- ☞小・中学生向けに広報する時は、「ひらがな」を使用する人が多い。「ふりがな」を振るのは、広報の紙面上難しい。
- 町広報紙は、どのぐらいの年齢層を対象としているのか。
- ☞現在の広報紙は、「大人の目線」で作られているのが現状である。
- 資料1「当初原稿」の「～大事な意思決定の場に女性が加わることができなかつたり、」の箇所を、原稿(案)①でやわらかい表現にしたのだと思うが、大人は「当初原稿」の方がわかりやすい。
- ☞庁内連絡会議にて出た意見では、記事を読んでもらうためにはまず、「目をひく」ことが大事であり、文章はできるだけ簡単にしたほうがよい、という意見であった。
- 町ホームページの「男女共同参画」の内容は、詳しく掲載されている。ホームページへのリンクを載せてみてはどうか。興味がある人は、広報紙から町ホームページを見るのではないか。
- 町ホームページは、町の情報が全て載っているが、実際あまり見ていない人が多い。
- 広報紙でも町ホームページでも周知していくことが大切である。「当初原稿」と「原稿(案)」をうまく合わせ、「～の場に加わる」がいいのではないか。
- 「～の場に加わる」で意見をまとめる。
- 「地域活動」の言葉表記については、新プランでは、全て「地域活動」で表記してある。
- ☞<施策7>が「地域活動」についてである。
- 「参画の促進」の意図からすると、「地域でやっていることに顔を出してみようか」という軽いイメージがよいのでは。「地域活動」というと「参加しなくては」と重いイメージになる。
- 「地域」という1語で、地域全体をイメージできる。「地域」で意見をま

とめる。

- 最近は、町の中でもゴミ出しを旦那さんがやっていたり、子供の通院などお父さんと来ていたり、先日の大雪の時も、道路の雪かきを近所の方々が協力してやっていたり、「男女共同参画」という言葉を知らなくても、自然と「助け合い」で生活できていることもある。
- そういうエピソードなども記事に盛り込んでいければよい。
- 二宮町の男女共同参画シンボルマークや、図や挿絵もわかりやすい。
- お父さんが大きな荷物を持ち、お母さんが子供を連れていてというようなやわらかいイメージがよい。
- 2. 取組み内容(1)②「男女共同参画を学ぶための勉強会の実施」について、県や近隣市町村の開催する講演会へ参加をしているが、是非二宮町でやっていただきたい。
 - 2. 取組み内容(2)②「推進連絡会による推進活動の実施検討」の中の「一般町民を対象とした講演会実施のサポート」については、地域独自で開催しているものにお手伝いに行くというのはどうか。
- ☞二宮町でも「男女共同参画講演会」は開催しており、近年は「子育て」関係によるものが多い。今年度も3月に「笑いヨガ体験」というものを実施する。
 - 地域独自で開催しているものにお手伝いに行く、という「出前講座」は、過去3回実施した経緯があり、「防災」のテーマに「男女共同参画」の冠をつけたが、自治会の要素が強く、「男女共同参画」がかすれてしまった。
- 3. 1 1の時などは、「女性の力も大切」ということで「男女共同参画」の名前を入れたが、やはり防災の意識の方が高かった。
 - 町民の「男女共同参画」の意識が高まってから、「出前講座」の実施を検討するということになり、新プランには残してある。
- 「出前講座」は、具体的なテーマがあり、そこに女性が関わるということで話をしていたと思うが、当時は意図がよくわからなかった。
- 二宮町民が学習することができる場をつくる、ということがいちばん大切な事である。大きな講演会を開催するという事ではなく、いろいろな所と連携して、1つの催しをやるという方法もあるのではないか。
- ☞今後、課題として考えていきたい。
- 「ネットワーク化の検討」は、どのように考えているか。
- ☞まずは、行政間のつながりを考えている。
- 「笑いヨガ体験」の記事を広報紙で見た。チラシに入っている「男女共同参画推進市町村連携事業」の言葉は広報記事に入れたか。
- ☞紙面の都合で載せられなかった。「かながわ女性センター」との共催とな

- っているので、今回は「男女共同参画」の冠がついているのだが。
- 是非載せてもらいたかった。
 - ☞残念ながら、「男女共同参画」の言葉を入れるとお客さんが入らない、という現実がある。かながわ女性センターの方とも相談して、講座に来ていただくと「男女共同参画」の要素が入っているという事業のつくりをしているため、チラシの言葉も小さめに載せている。
 - 講師が「男女共同参画」をうまく発信できて、来た人がそれを感じ取っていければよいのだが、そんなうまくはいかない。「かながわ女性センター」を「男女共同参画」と結びつけるとは思わない。
 - 「男女共同参画」自体が、具体的に何を示すのかははっきりしないから難しい。社会全般にあてはまってしまうから、全部に「男女共同参画」を絡めるとかえって構えてしまう。
 - 実際、推進はされていると思う。地道にやっていくことが大切である。町のマイナスイメージをなくし、若者や子育て世帯が住めるまちづくりをすれば、自然に老若男女助け合っている環境になるのではないか。「定住促進」につながり、「男女共同参画」にもなる。
 - 「男女共同参画」を前面に出さなくとも、子育てなどのまちづくり施策が、最終的に「男女共同参画」につながる。主要なテーマに「男女共同参画」をのせて広めていくというのも方法ではないか。

5. 決定事項

- ・平成25年度 第2回 男女共同参画プラン推進連絡会の公開の決定。